

【知事記者会見】 8月27日

知事／本日の発表項目は3件。

● 令和3年8月豪雨災害について

ここ数年、九州では豪雨災害が連続して発生

平成29年7月九州北部豪雨では、朝倉で多くの山が崩れ、木が筑後川を経て、有明海を埋めた。その頃から「線状降水帯」という言葉を聞くようになった。

平成30年7月は、岡山・広島で大きな被害がでた西日本豪雨。

令和元年8月の佐賀豪雨（九州北部豪雨）。

令和2年7月は、球磨川の豪雨。

4年連続で大雨特別警報が発表され、気候変動による影響を真剣に考えなければいけない。大雨が毎年降ることを前提に、ハードとソフトを組み立てる必要がある。

2年前を遥かに上回る今回の降水量

令和元年の佐賀豪雨と今回の降水量を比較した。特に、嬉野は1週間で年間雨量の半分を記録した。

佐賀県の1時間20ミリ以上の降雨の回数(5年ごと)

1時間に20ミリの降雨とは、「どしゃ降り」で「ワイパーを速くしても見づらい」状態。その回数は、20年前の鹿児島よりはるかに多い。気候が変わりつつあるという強い問題意識を持って対応をしなければいけない。

県内各地で大きな被害が発生

土砂災害は、どこで起こるか分からない。今回は、ぎりぎりのところで難を逃れたとも聞いた。

内水氾濫が起これ、浸水位置が高くなり、広範囲に及んだため住宅への被害が甚大になった。佐賀県は、内水氾濫が起きやすいという特徴がある。2年前と同じ地域で発生していることを重く受け止める。

被害の発生状況

住家を中心に被害が甚大で、いまだに避難されている方もおられるが、死者がでなかったことは幸いだった。

まずは人命が最優先!いち早く態勢を整えました

12日に知事臨時記者会見で「ダブルの危機」を呼びかけた。13日には、災害警戒本部を設置。14日に、災害対策本部設置し、計13回の会議を開催した。

佐賀県の特徴は、初動で動くべきチームが打ち合わせに入っていること。自衛隊、警察、消防、海保、ポンプ部隊、国交省、赤十字、CSO の方々に会議に入ってもらっている。そのため、自衛隊の災害派遣では、早めに重点地区に部隊が展開できた。2年前の経験を活かし、スムーズに展開できた。

今回はヘリが活躍した。3月から導入した防災ヘリ「かちどき」に、初めて搭乗した。不動山を見に行く途中、内野山の大きな土砂崩れを発見した。県警ヘリは、鹿路地区の土砂崩れを発見した。鳥瞰的に災害状況を把握する重要性を身にしみて感じた。

また、「かちどき」には、人を釣り上げて救出するホイストが設置されている。浸水地区の救助や、透析患者の搬送でも活躍した。

初めて航空調整を実施した。災害対策本部の中に調整班を作り、県、自衛隊、海保、県警のヘリに任務を付与することができた。

いち早い応急復旧で、ライフラインを確保しようと作業を進めている。

2年前の教訓が活かした。油の流出を阻止できたことで、排水を速やかに行えた。また、佐賀県遊技業協同組合の協力でパチンコ屋さんに車両避難することができた。

気候変動対応型の復旧・復興をめざします

佐賀県(令和3年8月豪雨災害)復旧・復興推進本部では、6つのチームを作り、県内の被災地を支援していく。

- 被災者支援チームでは、住宅支援。公営住宅や県営住宅に、最大2年間の無償受け入れをする。また、応急修理の受付を開始する。
- 市町支援チームでは、ボランティアセンターを設置し、住民のニーズに対応していきたい。
- 公共施設復旧対策チームでは、早期復旧と災害に強い県土づくりを進める。
- 農林水産支援チームは、浸水被害を受けた農地・林地の復旧に尽力していく。
- 商工業支援チームは、保証料率0%、限度額を6,000万円に引き上げ、借換えにも対応していく。

被災された皆様に寄り添って、最後のお一人まで全力を尽くしたい。

- 佐賀県パートナーシップ宣誓制度はじめます

さがらしい、やさしさのカタチ “さがすたいる”

“さがすたいる”は、お互いを尊重し、認め合う佐賀らしい優しさを大切に考える。

多様な人々が自然な形で触れ合う機会を増やし、やさしさが自然とあふれる佐賀県を目指す。

パートナーシップ宣誓制度をはじめます

家族でないことで発生する障壁を取り除きたい。例えば、病院では家族ではないから面会ができない、告知が行われない、事故に遭っても連絡が来ないといった障壁がある。県が、お二人を相互に協力し合う関係だと証明することで、前へ向いていけるような形にしたい。

お二人で宣誓していただき、県がお二人の関係性を証明

「佐賀県パートナーシップの宣誓の証明に関する要綱の規定に基づき、パートナーシップの宣誓をされたことを証します。」と書かれている受領証をお二人に発行する。これを持つことで、公立病院や県営住宅で家族同様の取り扱いがされる。今後、市町と話し合い、宣誓が活かされるものを多く作っていきたい。唐津市もこの制度を導入する予定。

本日から受付を開始する。受付後、必要な書類を揃えてもらい、約 1 週間後、二人で宣誓に来てもらう。プライバシーに留意し、交付する日を決める。

“さがすたいる”の想いを広げ、自然な形でお互いが尊重し合える県をつくっていききたい。

● SAGA アクアがオープンします!

SAGA サンライズパーク 夢や感動を生み出す「さが躍動」のエリアへ

昨年 12 月に日本代表のフェンシング、エペチームが佐賀で合宿を行った。その選手たちが東京オリンピックで金メダルを取った。さまざまなスポーツが、ここを使って躍進し、SSP構想の核となってほしい。また、スポーツだけでなく、コンサート、展示会、コンベンションなどを行うことが可能になり、画期的なエリアになっていく。

また、防災拠点施設としても、可能性がある。ワクチン接種の会場、災害が起きた場合の避難場所など大きな役割を果たしていける。

SAGA サンライズパーク アリーナ・アクアの整備状況

左側の大きな部分がメインのアリーナ。SAGA アクアの前方の部分が、450 人くらい収容できる大きなサブアリーナ。ペDESTリアンデッキで市民文化会館とつながる。仮囲いアートプロジェクトも展開している。

10月23日(土) SAGA アクア(水泳場)がオープン!

国際公認の 50m の屋内プール、最大 1,800 の観客席。25m を 2 つとしても使えるし、可動床で最大 3m の水深になり、選手権などに利用できる。現在の 25m プールも存続して、健康のために歩いたりできるように有効活用していく。県民の健康増進に役立つ活用を考えている。

屋外型の飛び込みプールは、高飛び込み、板飛び込みができる国内公認のプール。

23日10時より、オープニングセレモニーを開催!

オープニングデモンストレーションは、50m デモ、スペシャルリレー対決、飛び込みデモを予定している。参加が決まっている選手は、東京オリンピックで水泳のリレーに出場した伊万里出身の柳本選手、武雄高校の寺川選手、飛び込みのレジェンド寺内選手と坂井選手。デフリンピックで活躍中の金持選手。ほかにも調整中なので、楽しみにしていただきたい。

観覧希望者募集人数は、抽選で県内在住者 400 人。27 日の 15 時から募集開始する。歴史的な瞬間を実際に見てほしい。